

布用インキ



いずれのインキも

コットン、ポリエステル、麻、その混紡に適應します（濃色生地用は別）。最近の纖維製品では予想できない仕上げ加工を施したものがあります。変わった品物ではあらかじめインキをつけてみてテストして下さい。

筆がきのとき、インキのねばりで描きにくいときは水を少し入れてまぜ合わせて下さい。うすめ過ぎるとにじみますのでご注意下さい。

使った筆などはインキが乾かないうちに水洗いして下さい。

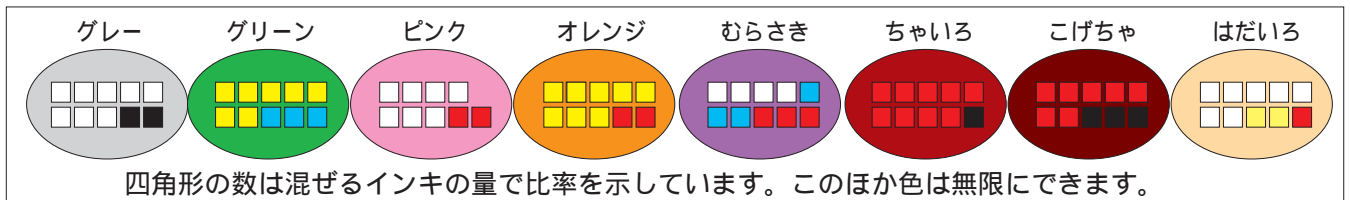
発泡インキは別として、かいたインキが乾いたら、アイロン（あて布をする）をあて、150度で10秒以上熱して下さい。熱することによりインキに含まれた合成樹脂の架橋作用で色落ちが少なくなります。

一ヶ月以上、そのままに置いても経時変化でアイロンをあてたのと同じ効果で色落ちしなくなります。

最初の洗濯で他の物に色移りすることがありますので別にして洗って下さい。二度目からは色落ちは少なくなります。（どんな高級な染めやプリントでも絶対に色落ちしないというものはありません）

ノーマルタイプ

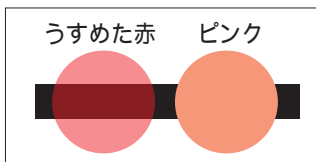
基本は5色でも調色によって無限に展開できます。



ノーマルタイプ 淡色

ノーマルタイプの淡色インキは色をうすめたり、ぼかしたりするとき、便利です。

うすい赤をつくる時、赤いインキに白をまぜるとピンクになります。ピンクとうすい赤は違います。白いところにかいたらどちらもピンクに見えますが、赤をうすめたインキなら下にかいた線が透けて見えます。



色をうすめる目的で、水をまぜると効果がなく、色がにじむだけです。

淡色インキは顔料を生地にくっつける膠着剤です。蛍光インキおよび金銀インキでかいたあとに上塗りすると、よりいっそう洗濯性がよくなります。

濃色生地用（浸まない）インキ

黒や紺、赤など濃い色の生地にノーマルタイプでかくと生地の中にインキがしみこんで色がはっきりしません。濃色生地用インキは生地にしみこまないで表面でかわきます。

赤、黄、青の三色です。白はノーマルタイプのものをお使いください。ポリエステル100%には使えません。

銀インキ

銀パウダーとメタルペーストを見た目の体積でほぼ同量混ぜて下さい。かきやすいように適当に水を混ぜます。混ぜ合わせたインキは時日がたつと、ガスが発生し膨張します。混ぜたインキを容器に入れて密閉しないで下さい。



混ぜたインキを容器に入れて密閉しない

蛍光インキ

白い生地には効果よく表現できます。ベースの色が濃い場合は下地にいったん白を塗り、その上に蛍光インキを塗れば蛍光色がよく映えます。

このインキは色落ちしやすいので、かならず加熱処理をして下さい。（「いずれのインキも」を参照）

発泡（ハッポー）インキ

かいたあと、インキを自然乾燥でよくかわかして下さい。

完全にかわいたら、あて布をしてアイロン（150度）で5秒ほど熱すると、かいたところがおもしろいほどふくらみます。加熱作業は次第に熱くするのでなく一瞬に熱するのが成功のヒケツです。

ふくれた分、インキの色はうすくなります。

